

～「小さな自然再生」で「かつての千種川」を取り戻せ！～
恵み豊かな千種川復活に向けた意見交換会 まとめ

日 時：令和3年2月28日(日) 14:00～16:30
場 所：佐用文化情報センター第1会議室
主 催：西播磨県民局光都土木事務所
[八木下所長、木村所長補佐、水鳥河川砂防第1課長、
難波、小林、高濱、国広、栗岡、横山]
共 催：千種川圏域清流づくり委員会
[岡田会長、林、植村、横山、筏、時政、山本]
学識者(リモート)：兵庫県立人と自然の博物館 三橋主任研究員
参加者：沿川住民、活動団体、学生等約30名

県内有数の清流といわれる千種川では、平成21年8月の台風9号による甚大な被害を受けて進めた緊急河道対策事業等の大規模河川改修で環境が大きく変化、事業完了から約5年が経ち、生態系や内水面漁業にかかる様々な課題が顕在化している。

そこで、河川管理者である県光都土木事務所では、千種川で水温調査や川に親しむ活動を行っている「千種川圏域清流づくり委員会」と連携しながら「恵み豊かな清流千種川復活大作戦」として、かつての千種川の復活に向け「小さな自然再生」の手法を取り入れて、段差の解消や深みの創出などの取り組みを進めていくこととしている。

取り組みを始めるにあたり、共通の課題認識を持ち、これからの取り組みについて話し合う「意見交換会」を開催した。



1 開会 (八木下所長)

- (1) 千種川は平成16、21年に大きな被害を受け、それ以降に大規模な改修を実施。平成28年度にほぼ完了し、5年が経過している。
- (2) 千種川を2年間見てきて、様々な課題を感じるなかで、少しずつでも何とかならないかという思いで、取り組みを行っている。
- (3) ひとりよがりの対策とならないよう、千種川圏域清流づくり委員会や他の方々の意見をいただきながら、今後の河川管理に活かしていきたい。

2 千種川圏域清流づくり委員会活動紹介

- (1) 委員会活動開始の経緯と概要報告 (横山)
「川に遊び、川に学ぶ～川ガキ復活！～」をモットーに2002年5月より活動している。
- (2) 一斉水温調査結果報告 (筏)
2009年前後で水温を比較すると、全般的に上昇している。特に中流域(緊急河道対策区間)



[横山氏]



[筏氏]

3 「恵み豊かな千種川復活大作戦」説明 (光都土木事務所)

- (1) 大改修から5年、課題が顕在化
- (2) 小さな自然再生で、計画的、継続的に「段差の解消」「深みの創出」等に取り組む
- (3) 千種川の概要：流域、改修経緯、現在の事業
- (4) 千種川の現状：自然環境、段差、漁業、水温
- (5) 環境配慮の方向性
- (6) 実施・検討している箇所：9箇所13項目
- (7) 「恵み豊かな清流千種川復活」に向けたキックオフ



[八木下所長]

4 意見交換

- (1) 固定堰が無くなり深みが無くなった。
→固定堰が生物の回遊を阻害していたものを、改修時に連続性のある取水方法に替えていたが、同時に本来有るべき瀬、淵、トロ場の存在が重要で、その創出が必要である。

- (2) 漁業権について、子供の魚取りはOK とならないのか。
→子供と高齢者および身障者は、鮎以外の魚種については遊漁料免除である。
- (3) 一斉水温調査の日時はどうやって決めたのか。→最高水温の確認のため、真夏に設定。
- (4) 竹藪伐採（有年檜原）で雀の住処が無くなった。
→洪水の影響が大きいところは伐採するが小さいところは残すなど、治水面と環境面のバランスから伐採方法を決定している。
- (5) 千種川の水量は減少しているか。
→水量の総量は降水量と同じなので大きな変化は無いだろう。山の保水力が減少し、降雨時と無降雨時の水量の差が大きくなり、無降雨時の水量が減っている可能性はある。
- (6) 護岸が地下水の浸透を妨げているのではないか。
→基本的には水が通るブロックや工法を採用するようにしている。
- (7) 潮止堰上流の水道取水を分散取水が出来ないのか。
→取水した水を配水するためには浄水する必要があるので、分散して取水することは困難と思われる。
- (8) 電気伝導度は低い方が良いのか。→低い方が良い。
- (9) 今回のテーマに含まれる「復活」は、悪くなったものをよくするという意味か。
→災害による改修以前の状態に復元すること。
- (10) 山城に負けないぐらい、千種川を盛り上げてほしい。名水 100 選に県内唯一河川から選ばれている千種川を、もっとアピールするべきでは。
→四万十川は地域の皆さんの営みが認められて清流として有名になっており、千種川もそのようになり得るので、活動を続けたい。
- (11) オオサンショウウオをある程度集めて都会の方も見られるよう力を入れてもらいたい。
→河川管理者としてはサンショウウオが生息できる自然環境の確保に努めており、それを地域振興に活かすのは地域住民で考えていただくべきこと。
- (12) 千種川はサイクリングコースとして良いので、名水百選に選ばれる千種川を全国に売り込む運動をすべき。
→千種川を売り込むなら、ただ水がきれいだけでなく、鮎の復活が不可欠。

5 まとめ（三橋主任研究員）

- (1) 千種川は大規模な改修で治水安全度は大きく向上したが、水生生物の種数や個体数は激減し、自然環境の劣化が著しい。
- (2) 本流にはダムなどの不可逆的な改変が行われていないほか、改修によって川が流れる空間が広がっているので、自然環境の再生は、時間がかかるが工夫次第で可能
- (3) 千種川には、県が調査した環境や水理条件のデータがあるので、そうした知見を活用して、環境対策を計画的にすすめるべき。
- (4) 千種川が抱える大きな課題は、河口部での海と川の連続性であり、潮止堰が制約条件である。



〔三橋主任研究員(リモート)〕

6 閉会（岡田会長）

- (1) 私は最下流の赤穂市に住んでいるが、おいしい水を飲みたいと思い、20 年前の立上げの時から委員会に参加している。
- (2) 一斉水温調査に加えて、イベントは年3回（春：潮止堰で鮎の遡上観察、夏：キャンプ場でのチチコ釣り大会、秋：上郡で川の生き物の観察）実施している。ぜひとも参加してほしい。
- (3) 住民の皆様とともに千種川を盛り上げる会にしていきたい。



〔岡田会長〕

7 閉会（八木下所長）

- (1) 三橋先生からは、「治水面は出来たが、データに基づく論理的な計画により、本格的な環境改善が必要である」とのまとめをいただいております、しっかりと進めていく。
- (2) 本日、光都土木が説明した13項目については、光都土木が課題認識を持っていると世間に宣言したので、少しずつでも改善していきたい。
- (3) 根本的な対策と小さな自然再生を組み合わせる対策を実施し、今後千種川が単に水質が良いだけでなく、真に良い川として世間に自慢できるよう、頑張っていきたい。



〔八木下所長〕